

## 介護福祉実習Ⅱ評価

### <実習記録 60 点>

#### 実習日誌 (23 点) /60 点

0	0.25	0.5	1
施設に提出していても、翌日になっても教員への日誌の提出がない。	実践内容しか書いておらず、内容が乏しく、書き直しが必要である。	目標に沿った、ができていないが、誤字脱字が複数ある。または不適切な記述がある。	目標に沿った考察ができ、誤字脱字 1~2 か所程度である。次の目標も明確にしている。

#### 介護過程課題 (30 点) /60 点

##### 情報収集 (10 点) /30 点

5	6	8	10
情報収集をしているが、多くの情報が付属しており分類も不十分である。  ※分類とは ICF のことである。	情報収集し、分類を行っているが、余白が 50%以上ある。記載されている情報について質問するが、情報不足により答えられない。	情報収集し 分類も適切に行われ 余白は 20 から 30%である まる 記載されている情報について質問すると答えることができる。	ニーズを抽出する上で十分な情報収集ができていない。情報も丁寧に整理され、利用者像が容易にイメージできる。

##### アセスメントからニーズ抽出 (10 点) /30 点

5	6	8	10
事実のみが列記されている。	根拠・原因、予測について記載があるがその記載は不十分であり、情報の統合化ができていない。そのためニーズの妥当性にかける。	根拠・原因、予測が十分に検討されているが、情報の統合化が不十分であるためニーズの妥当性にやや疑問が残る。	根拠・原因、予測が十分に検討されておりニーズも明確である。

##### 目標～計画立案 (10 点) /30 点

5	6	8	10
ニーズ＝目標と同様の文言となっており工夫が見られない。計画の内容は抽象的である。	目標は適切であるが計画は目標が達成できる内容となっていない。抽象的で具体性に欠ける。	達成可能な目標であり同時に計画内容も目標に沿っており具体的に記載されているがやや個別性にかける。	達成可能な目標であると同時に点計画の内容も 具体的で個別性がある。5W1H で表現され内容も再現されやすい。

※計画立案ができていて目標のみに課題がある場合は計画の内容によって 6 か 8 とする。

## 総合 (7点)

4	6	7
期限内に提出したが、誤字脱字が多く余白も目立つため、書き直しの必要がある。	期限内に誤字脱字なく実習の総括ができています。一般的な記述が多く、自分自身の考えが少ない。	期限内に誤字脱字なく、実習の総括が適切になされている。

## <学修態度 30点>

### ふだんの態度 (10点)

0	6	8	10
日誌の提出が遅く指導者に提出する前に提出しないことがある。遅刻するなどルールが守れない。	日誌の提出が遅れることが実習期間中1回あったが、遅刻はない。学習の取り組みに対してやや意欲にかける。	日誌の提出遅れ、遅刻もない。巡回の様子から意欲が窺える。積極的に指導者や脅威に質問もある。	日誌の提出遅れ、遅刻もない。巡回の様子から、意欲が伺える。積極的に指導者や教員に質問もあるが、自己学習等探求心がある。

### カンファレンス (10点)

6	6.5	8	10
カンファレンスに参加した。	声が小さくて地震がない様子で、計画の内容がうまく伝えられない。	声も大きく、自分の意見を伝えることができ、職員等の意見を求めることができた。	声も大きく、自分の意見を伝えることができ、課題についてディスカッションできた。

### 反省会 (10点)

6	6.5	8	10
準備ができておらず、その場で考えて意見を述べた。	紙に書いているが整理されていない。反省文になっている。	発表内容を整理しており、実習の目標に合わせて、目標の達成度について発表することができた。	実習の目標に合わせて、目標の達成度について発表することができた。紙に書いているが自分の言葉で表現している。

## <実習評価 B (10点) >

5	6	8	10
実習評価できないという回答があった。	A 評価が5以下。	A 評価が6から8 C 評価の有無は問わない。	A 評価が9以上 C 評価の有無は問わない。

実習評価 A は評価得点として加算しないが、学生との面接において A と B とその他の評価と合わせて利用する。